

特定行為に係る看護師の研修における フォーラム機能の利用状況と改善方法

How to success using online learning for Nursing Pertaining to Specified Medical Acts

八木(佐伯)街子, 村上礼子, 鈴木美津枝, 淺田義和, 三科志穂, 関山友子, 川上勝

Machiko S YAGI, Reiko MURAKAMI, Mitsue SUZUKI, Yoshikazu ASADA, Shiho MISHINA,
Yuko SEKIYAMA, Masaru KAWAKAMI

自治医科大学

Jichi Medical University

＜あらまし＞特定行為に係る看護師の研修制度が開始され、医師が行っていた医行為の一部に関して特定行為研修を修了した看護師が実施できるようになった。この研修に対して、我々はmoodleを用いることに加えて、moodleのフォーラム機能を用いた学習者間のディスカッションを促しているものの、活発とは言いがたい。そこで本研究では、フォーラム利用状況と学習成果、学習者のフォーラム利用に対する意見を分析した。その結果、フォーラム投稿数が多い学習者のほうが科目を修了することなどが明らかになった。これらの結果を踏まえて、フォーラム機能をより活用するために、ディスカッションに参加する意義を示し、自己紹介の充実や、即時性のあるディスカッション設定に変えるなどの改善点が示唆された。

＜キーワード＞ 遠隔教育・学習、協調学習、オンラインディスカッション、学習者支援、看護教育

1. はじめに

2015年10月より、特定行為に係る看護師の研修制度^⑩（以下、特定行為研修）が施行され、これまで医師が行っていた医行為の一部に関して特定行為研修を修了した看護師が医師の包括的指示（手順書）をもとに実施できるようになった。特定行為研修は、共通科目9科目と個々の習得したい特定行為に特化した内容である区別別科目を修了する必要がある。自治医科大学看護師特定行為研修センター（以下、当センター）では、学習者の利便性を考慮し、全ての講義科目でeラーニングを用いている。（図1）



図1. 自治医科大学看護師特定行為研修の流れ

e ラーニングの学習効果を高めるための教育設計手法として、Rossman^②は学習者や教育者が e ラーニング上でディスカッションを実施することが有効であると述べている。当センターでも学

習者間の情報共有や相互作用による学習効果を高めることを狙い、moodle のフォーラム機能を用いた学習支援を行っている。しかしながら、オンライン上でのディスカッションは、関係性を築くに至っていない相手とのコミュニケーションであり、学習者にとってはハードルが高いことも事実であり³⁾、当センターの現状としても活発とはいえない。そこで、本研究では、特定行為研修におけるフォーラムの利用の現状を分析し、その改善点を探査した結果を報告する。

2. 研究方法

2.1. 研究対象

研究対象は、自治医科大学にて看護師特定行為研修を受講し、調査に同意が得られた30名とした。

2.2 研究方法

1)学習支援システムの学習履歴

moodle 内に記録されている特定行為研修の共通科目 9 科目の履修状況および共通科目内でのフォーラムの内容を抽出した。本研究では、共通科目 9 科目全てを履修し終えることを「修了」、それ以外を「未修了」とした。修了状況と対象者の属性（性別、年齢、実務年数、居住圏、認定看護師および専門看護師資格の有無）の関連性について分析した。

当センターでは、フォーラムの役割を「学習を

する上で生じた疑問を共有し、意見交換を行う場である」と対象者に説明した。フォーラムでのディスカッションの内容は、「講義、演習、実習内容に関する内容」、「提出物の作成、提出、評価に関する内容」、「システム関連のトラブルに関する内容」、「その他（挨拶やお礼）」の4項目に分類した。投稿数およびディスカッションの内容と対象者の属性との関連性について分析した。

2) 中間アンケート

共通科目の学習開始から3ヶ月後の学習中間にeラーニングによる学習継続に影響を与える因子を明らかにするために、Ivankovaら^④の用いた質問項目を参考に、「オンライン環境」、「フォーラム等を用いた研修生同士の交流の有無」、「学生サポートのサービス」、「モチベーションの維持」の状況について4段階のリッカートスケールを用いて質問をした。同時に、半構造化インタビューを行った。本研究での有意水準は5%とした。

3. 結果

3.1. 対象者の概要

研究参加に同意が得られた30名のうち、28名（93.3%）が中間アンケートに回答した。対象者の年齢（平均±SD）は39.0±7.9歳であり、20名（66.7%）が女性であった。対象者の実務年数（平均±SD）は16.2±7.8年で、全員が正職員として職務についていた。

3.2. 学習履歴の分析

対象者30名のうち、23名（76.6%）が共通科目を修了した。また、フォーラムへの全投稿数は160件であった。対象者の修了状況については、実務年数（p=.04）、投稿の有無（p=.02）に関して有意な差がみられた。投稿数と対象者の属性との関係では、性別に関して女性の投稿数が有意に多く（p=.03）、修了群では未修了群よりも有意に投稿数が多かった（p=.001）。

ディスカッションの内容を「講義、演習、実習内容に関する内容」、「提出物の作成、提出、評価に関する内容」、「システム関連のトラブルに関する内容」、「その他（挨拶やお礼）」の4点に分類した結果、それぞれの投稿数は45件、28件、57件、30件であった。「システム関連のトラブルに関する内容」に関して、女性の投稿数が有意に多かった（p=.001）。また、投稿数を月ごとに分類した結果、eラーニングでの学習を開始した10月の投稿数が最も多く、投稿数は徐々に減少した。1フォーラム毎のやりとりの数は最大でも4回で、その多くが教員からの返信にとどまり、対象者同士の返信は2件だった。

3.3. 中間アンケートの分析

中間アンケートの結果、「オンライン学習環境」と「学生サポートのサービス」の平均±SDはそれぞれ 3.0 ± 0.7 、 3.0 ± 0.6 であった。しかしながら、「フォーラム等による交流の有無」は 1.9 ± 0.6 （平均±SD）であり評価が低かった。また、「モチベーションの維持」に関しても同様に 2.3 ± 0.7 （平均±SD）と低い結果となった。インタビューでは、「（オリエンテーションで）1度会っただけなので、投稿しにくい。」「投稿してからメールが届くまでに時間がかかる。」という意見があった。

4. 考察

オンラインディスカッションに関する改善点

今回の調査結果から、投稿数や投稿内容の傾向、1フォーラムあたりの投稿数が最大でも4回であることなど、フォーラムの利用実態が明らかになった。また、投稿の有無と投稿数が科目の修了に影響することも明らかになり、フォーラムの利用を今後も促していく必要があるといえる。また、「投稿しにくい」理由に、対象者同士の理解が不足している点があることから、相互理解を促す工夫が必要である。その他に、フォーラムの投稿設定に関して、即時性を持たせることが勤務の合間に学習を進める対象者にとって重要であると考える。

改善点

- ① フォーラムへの参加意義を明示する
- ② 相互理解を図るための自己紹介を行う
- ③ フォーラムに即時性をもたせる

これらの改善点は随時改修し、その結果を今後も報告していく予定である。

研究の限界

今回の報告は、対象者数が少なく、一般化した情報を提示するには十分ではない。本結果をもとに次回以降の教育設計を改善し、実践例を重ね、内容妥当性の高い情報を提供する予定である。

参考文献

- 1) 厚生労働省：保健師助産師看護師法第三十七条の二第二項第一号に規定する特定行為及び同項第四号に規定する特定行為研修に関する省令、2015。
- 2) Rossman M. H.: Successful online teaching using an asynchronous learner discussion forum. *Journal of Asynchronous Learning Networks*, 3(2): 91-97, 1999.
- 3) Simpson O.: Supporting students in online, open and distance education. Third edition, Kogan (London), pp.4, 2012.
- 4) Ivankova N. V., Stick S. L.: Students' persistence in a distributed doctoral program in educational leadership in higher education: A mixed methods study. *Research in Higher Education*, 48(1): 93-135, 2007.